



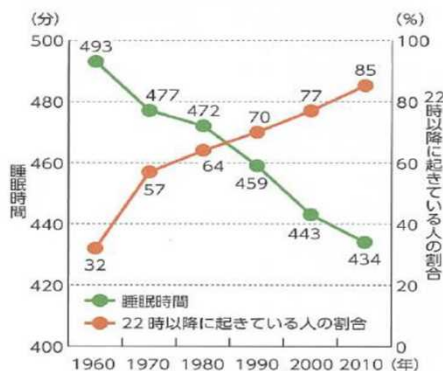
「教育立県ちば」を推進する懇話会 家庭・地域の教育力の向上と活用

国立青少年教育振興機構
鈴木みゆき



大人も子供も遅寝になっていた

図1 日本人（10歳以上）の平日の睡眠時間と22時以降に起きている人の推移



NHK国民生活時間調査、総務省「社会生活基本調査」より作成

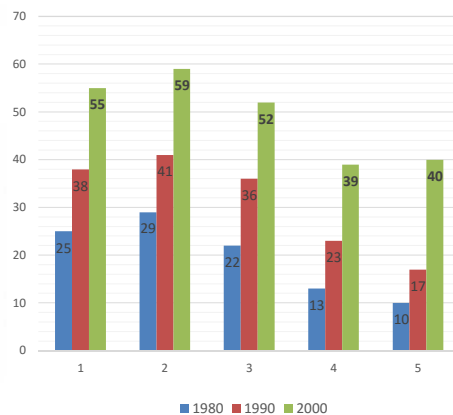


図2 夜10時以降に寝る幼児の割合





Total sleep time

Nighttime sleep + daytime sleep

- Predominantly Caucasian = 7960
 - United States (US), Canada (CA), United Kingdom (UK), Australia (AU), New Zealand (NZ)
- Predominantly Asian = 20,327
 - China (CN), Hong Kong (HK), India (IN), Indonesia (ID), Japan (JP), Korea (KR), Malaysia (MY), Philippines (PH), Taiwan (TW), Thailand (TL), Vietnam

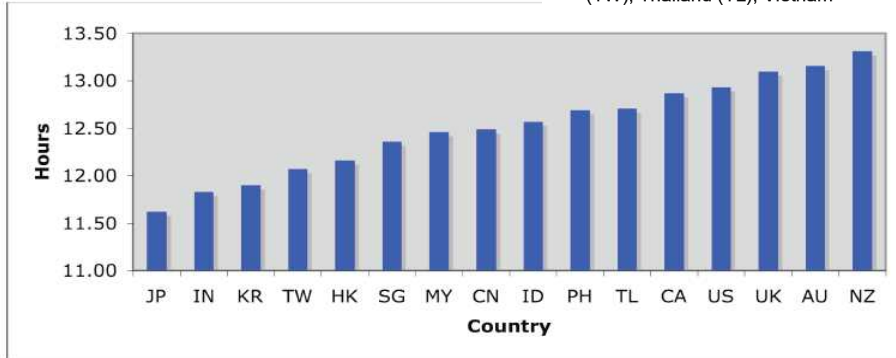


図3 Cross-cultural differences in infant and toddler sleep: J. Mindell et al. Sleep medicine Vol.11,2010



表1 必要と考えられている人間の年齢別の睡眠時間

年齢	必要な睡眠時間(時間)
新生児(0~3ヶ月)	(11-13) 14~17 (18-19)
乳児(4~11ヶ月)	(10-11) 12~15 (16-18)
幼児(1~2歳)	(9-10) 11~14 (15-16)
幼児期(3~5歳)	(8-9) 10~13 (14)
学童期(6~13歳)	(7-8) 9~11 (12)
ティーンエイジャー(14~17歳)	(7) 8~10 (11)
大人(18~25歳)	(6) 7~9 (10-11)
大人(26~64歳)	(6) 7~9 (10)
高齢者(65歳~)	(5-6) 7~8 (9)

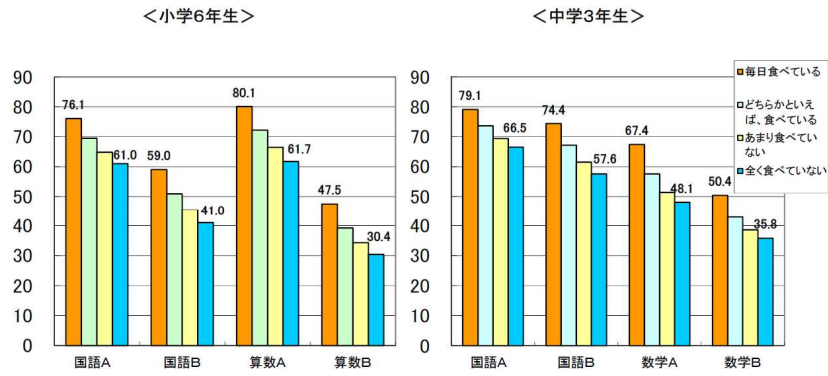
(National Sleep Foundation in USA)2015

赤字: 推奨時間 (Recommended Range)
 ()内: 限界範囲 (May be Appropriate)



朝食摂取と学力との関係

朝食の摂取と学力調査の平均正答率との関係



文部科学省「平成29年度全国学力・学習状況調査」
(Aは主として「知識」に関する問題 Bは主として「活用」に関する問題)

図6 朝食の摂取と学力調査の平均正答率との関係



生活習慣の改善

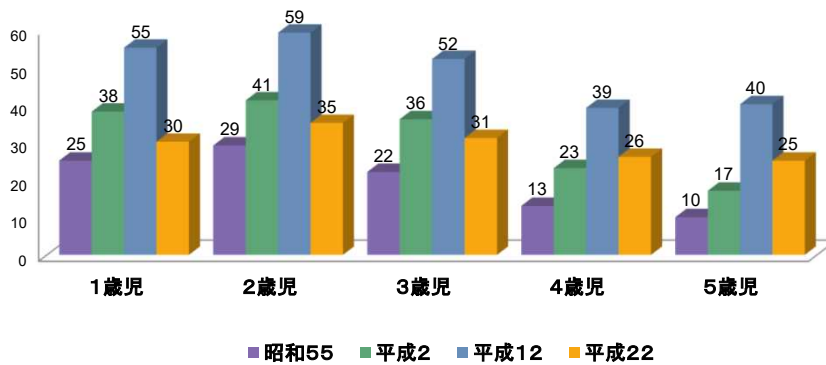


図7 夜10時以降に寝る幼児の割合
平成22年度幼児健康度調査 速報版」小児保健研究Vol.70,NO.3.2011
pp448-pp457 より作成





家庭教育への支援 耳を傾けてほしい保護者にどう届けるか？

① 親の育ちを応援するプログラムの充実

- ・科学的根拠を丁寧に伝える
- ・支援のネットワークと循環
- ・子どもも家庭や社会の一員として役割を持つ

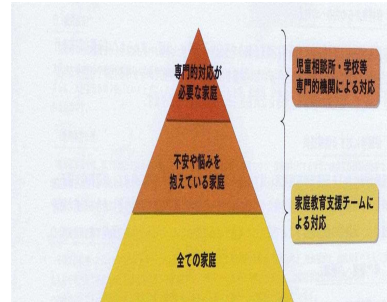
② ユニバーサルとターゲット

- ・ニーズに複眼的に対応していく必要性

③ 国や地方自治体の役割

- ・地域の家庭教育支援の取組を活性化するための仕組みを整備する。

→情報提供, 助言, 人材の養成や研修機会の提供など自律的かつ持続的な取組を継続できるような環境の整備。地域におけるモデル的な取組の推進, 普及啓発など。。



訪問型家庭教育支援のイメージ

文部科学省「訪問型家庭教育支援の関係者のための手引き」



対象	家庭が抱える課題	支援内容
全般	子育てに不安を感じている	・不安なことに耳を傾ける ・頑張りをねぎらう
	家族やママ友、子供間のトラブル	・不安・不満を聴き、自己解決につなげる
	子供のしつけや叱り方がわからない	・自分の体験を伝える ・教育相談等を紹介する
	引っ越してきたばかりの人や外国人で子育てに困っている	・情報提供する ・支援の窓口を紹介する
	子供の生活リズムが乱れている	・生活リズムを整えるよう助言する ・情報機器等の利用ルールづくりを助言する
乳幼児の親	親子関係不全・子供と遊べない	・子供と一緒に遊んでみる ・絵本を読んで見せる
	友人がいない・孤立感が高い・大人と話したい	・公民館や地域子育て支援拠点などでの交流の場を紹介してみる
小中学生の親	子供が朝起きられず登校時間になっても登校できない	・朝、家庭を訪問して保護者や子供に声掛けして、登校を促す
	登校していないので学校からの配布物等が届かない	・チーム員が配布物等を家庭に届けつつ、家庭の様子を把握する
	学校から家庭や子供と連絡がつかない	・チーム員が家庭や子供の様子を見に行く
	経済的に厳しい家庭	・就学援助の制度等の情報を伝える



家庭教育支援事業基盤構築事業

STEP1

家庭教育支援員の養成

例) 地域の多様な人材による参画
・元教員、PTA関係者、子育て経験者など



STEP2

家庭教育支援体制の構築

- 家庭教育支援員の配置
- 家庭教育支援チームの組織化
- 連絡会議、ケース会議等の設置・運営



STEP3

家庭教育を支援する取組

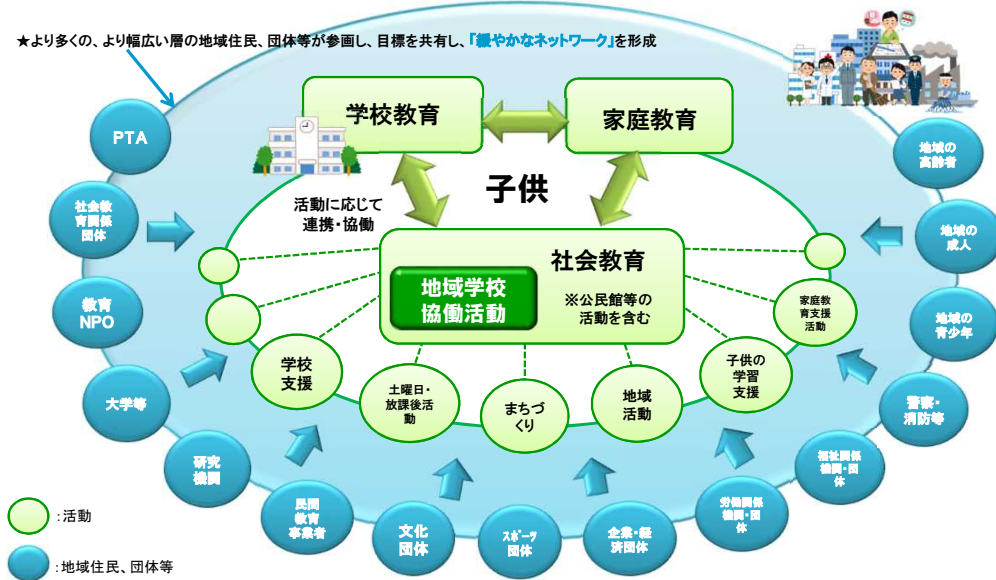
- ① 学習機会の提供
- ② 親子参加型行事の実施
- ③ 相談対応、情報提供



地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み（活動概念図）

- ◎ 次代を担う子供に対して、どのような資質を育むのかという目標を共有し、地域社会と学校が協働。
- ◎ 従来の地縁団体だけではなく、新しいつながりによる地域の教育力の向上・充実、地域課題解決等に向けた連携・協働につながり、持続可能な地域社会の源となる。

★より多くの、より幅広い層の地域住民、団体等が参画し、目標を共有し、「緩やかなネットワーク」を形成

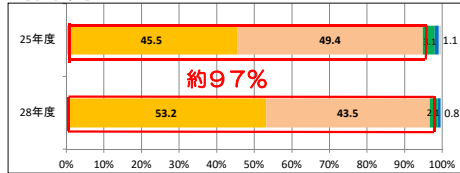


地域学校協働活動による効果（地域）

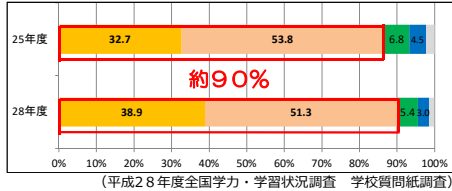
◆ 保護者や地域住民の学校支援ボランティア活動は、学校の教育水準の向上に効果があると思う学校は約9割にのぼる。

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ その他、無回答

【小学校】



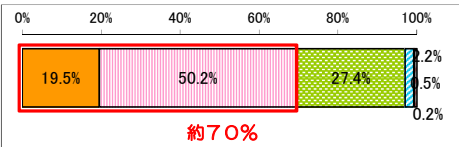
【中学校】



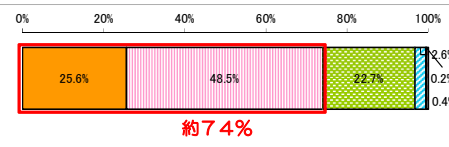
(平成28年度全国学力・学習状況調査 学校質問紙調査)

地域への効果

◆ 実際に本部事業に参加してみて、地域住民が学校を支援することにより、地域の教育力が向上し、地域の活性化につながった



◆ 実際に本部事業に参加してみて、地域住民の生きがいづくりや自己実現につながった。



■ とても思う ■ ややそう思う ■ どちらともいえない ■ あまりそう思わない ■ まったくそう思わない ■ 無回答

(「平成27年度地域学校協働活動の実施状況アンケート調査」文部科学省・国立教育政策

研究所。上記は学校を対象とする調査結果。)

1. 保護者自身が学ぶ場を作る

1 次の事柄について、現状では、誰が主に決めていますか？

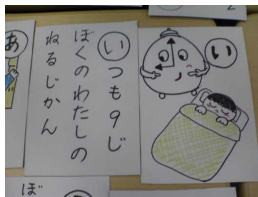
「親」・「親子で相談」・「子供」の3つの中で、最もあてはまるものを選んで○をつけましょう。また、理想としては、誰が決めた方がいいと思いますか？同じように、あなたの考えに最も近いものに○をつけましょう。

決める事柄	現状は？	理想は？
①起きる時刻や寝る時刻	親・親子・子	親・親子・子
②お手伝いの有無や内容	親・親子・子	親・親子・子
③朝ごはんのメニュー	親・親子・子	親・親子・子
④おやつの有無やメニュー	親・親子・子	親・親子・子
⑤一緒に遊ぶ友達	親・親子・子	親・親子・子

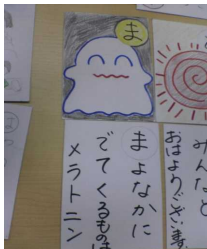
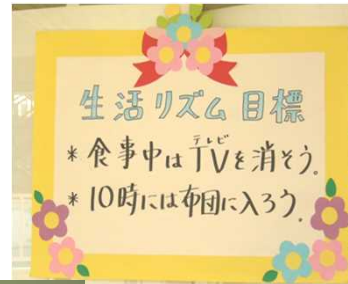
2 「理想」と「現実」を比べて、気付いたことは？



2. 保育所や地域で



- 毎年春の保護者会で保護者と一緒に生活リズムの目標をたてた。
- 保護者と一緒にカルタを作った





支援の循環をめざそう

支援を受けた保護者が
支援する側に育つ

・セルフ・エンパワーメント
できるような支援を！

